



# 園だより

文京区立第一幼稚園  
令和6年度11月号

URL <http://www.bunkyo-tky.ed.jp/dai1-kg/>

## 心地よい関わりが広がる秋に

園長 田村 秀子

西片の町ではハナミズキの葉が色付き、赤い実がつややかです。園のイチヨウはまだ緑色ですが、黄色い葉や銀杏が毎日落ちてきます。何年も実りませんでした。ここ数年でまた実るようになりました。園の倉庫には銀杏を割るペンチがたくさんあったので、以前はたくさん実ったのかもしれない。子供にはあまり人気のない銀杏ですが、砂や土の中で転がして外皮をとると中から固い実が出てきます。洗って乾かし、箱に入れると「これ何？銀杏ってこんな風になってるんだ」と子供たちが興味深々で触っていました。ペンチで割って薄緑の実を加熱すると食べられます。貴重な秋の実りです。

さて、運動会後は年長・年中・年少の自然な交流の姿が増えました。年少中が混じってリレーをしたり一緒に踊ったりする姿はとてもほほえましかったです。最近では年少組や年中組で魔女ごっこやハロウィンごっこが始まり、お菓子ができると「このお菓子、年長さんにもあげたい」と先生と一緒に2階へ上がって行きました。3学年が1階と2階を行き来し、言葉を交わし合っています。

年中保育室の入り口で「こんにちは」「ちょっとすいませーん」と声を出している年少児。年長保育室の前で「ちょっと、なんて言おうか」と相談している年中児。年長児が嬉しそうに出迎えてくれるとホッとしたようです。「お菓子をどうぞ」「食べたら返してくださいよ」「えっ返さなくていいんだよ。いっぱいあるから」と思いが食い違うこともあります。魔女の帽子やカボチャのバッグがお気に入りですが、作り方は学年で違いがあり、子供たちが自分で作れるように先生たちがそれぞれの技能に合った材料を用意しています。また魔女や魔法の絵本が保育室にあることで、絵本からイメージが広がっているようです。魔法の杖を持って「ストップ!」「ゴー!」と魔法をかける姿もありました。英語に親しんでいる子の影響を受けて、他の子も英語での遊びを楽しんでいます。

年長児は、遊園地に遠足に行った後、遊園地を作ろうと学年で相談しグループ製作に取りかかっています。「年少や年中も呼びたい」という思いで話し合い、協力し、素敵な遊園地になることでしょう。

子供たちが友達とイメージを伝え合って遊べるようになるためには、日頃から、自分のしたいことやどんな風にしたいのかを話したり、相手の話をよく聞いて「こういうことかな」と理解したり、自分の考えとは違うけれど「こうするのも面白いかな」と受け止めたりしていくことが大切です。「どうかな?」と相手に聞いたり、「そういう風にしたくない」と伝えたり、「じゃあ、こういう風にしようよ」と新しい考えを提示したりするなど、様々な言い方や関わり方に気付いていくように、周りの大人がまず子供たちとの丁寧な会話を心がけ、一人一人の思いを受け止めることが必要です。最近の「はや!」「ちいさ!」「ヘン」などの言葉では、言われたことや言いたかったことの意味が分からず、お互いに不安になることもあります。「それってどういうこと?」と子供が言いたかったことを確かめ、相手の気持ちにも心を寄せることのできるような関わりを心がけていきたいと思えます。ご家庭でも、お子さんの気持ちや考えをじっくり聞き、おうちの方の思いや考えも伝えてみてください。子供たちの心を耕し、心地よい関わりやイメージ豊かな遊びが広がる秋にしていきたいと思います。